

地域デザインフォーラム

(板橋区・大東文化大学との共同研究)

平成14年 3 月

板橋区・大東文化大学

ごあいさつ

日本の社会は空白の10年といわれるようにバブルの崩壊から立ち上がることができず、私たちが生活している地域社会にも様々な影響が及んでおり、未だに新しい指針を生み出せずに深い混迷の途上にあります。

板橋区には50万人の区民が生活し、働き、学び、商店街や工場等の産業活動も活発で私たちの生活に多くの利便をもたらし、生活と産業の調和のとれたまちづくりが進められています。しかし、急激に変化する社会や経済の構造に伴い、地域社会は大きく変容し始めています。希薄化しつつあるコミュニティ、急激に進んでいく少子高齢社会、空き店舗が増え続ける商店街など深刻で、緊急に解決していかなければならない課題が山積しています。

地域社会の新しい動きに目を転じてみると、社会福祉や環境問題等について活動しているボランティアやNPO等のように私たちの生活から日本の社会を変えていくようなバイタリティある団体や住民の活動が胎動し始めています。まさに、現代はこのように多岐にわたる領域で活動している個人や団体と様々なネットワークを構築し、地域社会の今日的な課題

について共に考え、一つずつ克服していかなければなりません。

このような時代の転換期に大東文化大学と板橋区との共同研究は、平成12年5月にはじまりここに最終報告書として研究の成果がまとめられました。

今回の共同研究は、変化する区民生活や環境といった地域社会の様々な課題について、地元の大学と地方自治体とが「協働」して考え、21世紀を担う明確なビジョンを示しています。「まちづくり（コミュニティ）」、「高齢者福祉」、「産業振興」の三つのテーマについて各分科会で研究を重ねていただきましたが、これらのテーマは、現在区政にとって最も重要であり、緊急に取り組まなければならない課題であります。

板橋区といたしましても、この貴重な提言について尊重し速やかに実行していく所存でございます。

最後に、2年間にわたり研究員として参加した区職員を、協働の精神に基づき迎え入れていただいた大東文化大学の関係者に深くお礼を申し上げますとともに、この研究にご協力をいただいた関係者の方々に感謝申し上げます。

東京都板橋区長 石塚 輝雄

ごあいさつ

2000年5月に板橋区と本学との間で協定が結ばれ、「地域デザインフォーラム(地域連携研究)」がスタートしてから、2年経とうとしています。2年間を一区切りとして研究をまとめるという当初の計画どおり、ここに研究報告書が刊行される運びとなったことは、誠に喜ばしいことでもあります。

私がかねてより、本学が区や地域の皆さんと結びつきを深め、お互いに役立つ関係を築く必要を感じておりましたし、自らもそのような努力をささやかながら続けてきました。本学の公開講座等もそのような役割を果たしてきたと思います。これまでのそうした蓄積をふまえて、発足した「地域デザインフォーラム」は、本学と板橋区が協力して行なう本格的な共同研究プロジェクトであり、この2年間、両機関から選ばれた研究員が一体となって精力的に研究を進めてきました。本報告書には、その研究成果が集約されております。これが板橋区のコミュニティづくりや福祉の改善に生かされる

ことを願ってやみません。

共同研究に加わってくださった区の職員の皆さんは、区政のそれぞれの分野に精通された有能な幹部や中堅の方々ばかりです。区政や区民の暮らしの現実を背景にして鋭く問題を提起し、共同研究に携わる本学の教員に新鮮な刺激を与えてくださったと思います。現実に根ざすことは、学問が深められる一つの重要な契機です。このような意味において、本共同研究は大東文化大学の研究・教育にも大きく裨益するものでありました。また、文科系総合大学としての本学の研究の蓄積が本共同研究を通じて区政や地域の皆さんにお役に立てる有力な道が開かれたという点も、大変意義深いことでもあります。

本共同研究は継続更新される予定であります。このたびの成果をふまえて、板橋区と本学の共同研究が次の2年間をかけて、さらに発展することを期待したいと思います。

大東文化大学学長 須藤 敏昭

目 次

地域社会 I

まちづくりとコミュニティ	3
--------------------	---

地域社会 II

21世紀の福祉のまちづくり	94
---------------------	----

産業振興

新産業の創出支援	197
----------------	-----

区民活動調査	321
--------------	-----

共同研究について

共同研究の意義について	379
地域デザインフォーラム	381
共同研究員名簿	385